広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

［広 島 県 感 染 症 予 防 研 究 調 査 会］
（ 平成27年5月解析分 ）

1　今月のトピックス

(1)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報の発令について

広島県感染症発生動向調査による，第18週（4月27日から5月3日）の定点医療機関からの「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の報告患者数が，北部保健所管内（三次市，庄原市）において国立感染症研究所感染症疫学センターが示す警報開始基準値（定点当たり8）を超えており，県全体の定点当たり報告患者数もやや増加傾向にあることから，広島県感染症発生動向調査警報・注意報発令要領に基づき，5月11日に「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報」を発令しました。

なお，北部保健所管内（三次市，庄原市）の定点当たり報告患者数が，他の地域に比べて高くなっており，この地域では，感染予防に特に注意が必要です。

病　原　体	A群溶血性レンサ球菌（咽頭炎だけでなく，中耳炎，肺炎，髄膜炎など，いろいろな病気を引き起こします。）
症　　状	・乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ，発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱（しょうこうねつ）といわれる全身症状を呈します。 ・感染すると通常2～5日の潜伏期を経て，突然の発熱と全身倦怠感，咽頭痛によって発症し，しばしば嘔吐を伴います。熱は3～5日以内に下がり，1週間以内に症状は改善しますが，まれに重症化し，猩紅熱に移行して軟口蓋の小点状出血あるいは苺舌がみられることがあります。 ・気管支炎を起こすことも多く，発疹を伴うこともあり，リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともあります。
治療と予防	・レンサ球菌には抗菌薬が有効なので，お子さんが熱を出して扁桃腺を腫らした場合は，単なる「喉痛」と片付けず，かかりつけの医療機関を受診されることをお勧めします。 ・また，この病気は，患者の分泌物等からの飛沫やそれらに汚染された器物から感染しますので，感染症予防の基本である「手洗い」と「うがい」の励行を心がけてください。

(2) これからの時期に注意すべき感染症について

① 手足口病

手足口病は，乳児・幼児を中心に夏季に流行が見られる急性ウイルス感染症です。
感染症発生動向調査による，県全体の定点当たり報告患者数が，3月の0.26から，4月では0.45と高くなりました。
全国的にも，定点当たりの報告患者数が，過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっており，注意が必要です。

病　原　体	コクサッキーウイルスA16型，エンテロウイルス71型，コクサッキーウイルスA10型など
症　　状	感染から3～5日の潜伏期間の後に，口腔粘膜，手，足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が現れます。 発熱は軽く，通常高熱が続くことはありません。一般的には，数日間で治癒する予後良好の感染症です。ただし，発疹の初期2～3日の症状の変化には注意が必要で，特に，元気がない，頭痛・嘔吐を伴う，高熱を伴う，発熱が2日以上続く，などが見られた場合には，かかりつけ医に受診するようにしてください。 また，まれに重症化や合併症を伴う場合があり，特にエンテロウイルス71型に感染した場合は，髄膜炎，脳炎などの中枢神経系合併症を生ずることが比較的多いので注意が必要です。
感染経路	飛沫感染，接触感染，経口感染で，主症状が回復した後も比較的長期間にわたって便などからウイルが排泄されることがあります。
予防方法	排泄物の取扱いについて注意すること及び手洗いの励行が基本となります。

② 伝染性紅斑

伝染性紅斑は，両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれる幼児を中心に流行する感染症です。
県全体の定点当たり報告患者数が，3月の0.02から，4月では0.08と急増しました。
全国的にも，定点当たりの報告患者数が，過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっており，注意が必要です。

病 原 体	ヒトパルボウイルスB19
症　状	感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑が特徴で，続いて腕，脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられます。発熱はあっても軽度です。 成人では，両頬の紅斑は少ないですが，合併症である関節痛・関節炎の頻度が，小児の約10%以下と比較して成人男性で約30%，成人女性で約60%と高率です。また，妊婦が感染すると，胎児水腫や流産の可能性があります。その他，免疫不全症の方が感染すると，治療が必要な慢性の貧血となる場合もあります。
感染経路	このウイルスはヒトのみに感染し，飛沫感染か接触感染による気道からの感染と考えられています。
予防方法	手洗いが基本となります。特に妊娠されている方は，流行時期には人ごみを避けるなど注意しましょう。

2 疾患別定点情報

（1） 定点把握（週報）五類感染症

平成27年4月分(平成27年4月6日～平成27年5月3日：4週間分)

No	疾　患　名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	671	1.46	3.26	↓	11	ヘルパンギーナ	8	0.03	0.07	
2	RSウイルス感染症	46	0.16	0.24	⇘	12	流行性耳下腺炎	150	0.52	0.65	⇘
3	咽頭結膜熱	117	0.41	0.53	⇗	13	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.05	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	785	2.73	1.65	→	14	流行性角結膜炎	42	0.55	0.84	→
5	感染性胃腸炎	2,185	7.59	9.30	→	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	91	0.32	1.05	⇗	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	129	0.45	0.76	⇗	17	マイコプラズマ肺炎	15	0.18	0.23	⇗
8	伝染性紅斑	22	0.08	0.16	↑	18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.01	
9	突発性発しん	142	0.49	0.53	⇗	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	42	0.50	－	↑
10	百日咳	4	0.01	0.06	↓						

（2） 定点把握（月報）五類感染症

平成27年4月分（4月1日～4月30日）

No	疾　患　名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	47	2.04	2.11	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	76	3.62	5.57	⇘
21	性器ヘルペスウイルス感染症	14	0.61	0.56	⇘	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	0.48	1.19	⇗
22	尖圭コンジローマ	10	0.43	0.53	⇘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.10	
23	淋菌感染症	14	0.61	0.79	⇘						

※「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当たり）
※ 報告数が少数（10件程度）の場合は発生記号は記載していません。
※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は，平成25年10月14日から届出対象となったため，過去5年平均データはありません。

急増減疾患！！（定点当たり 前月比2倍以上増減）

●急増疾患　伝染性紅斑　（ 0.02 → 0.08 ）
感染性胃腸炎(ロタウィルス)（ 0.19 → 0.50 ）
●急減疾患　インフルエンザ（ 3.27 →1.46 ）
百日咳　（ 0.03 → 0.01 ）

発生記号（前月と比較）

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増　減	⇗	⇘	1:1.5～2の増減
微増減	⇗	⇘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症（週報対象19疾患，月報対象7疾患）について，県内178の定点医療機関からの報告を集計し，作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13，14	20～23	15～19，24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾　患　名（管轄保健所）
一　類	0	発生なし
二　類	35	結核(35)〔西部保健所(4)，西部東保健所(1)，東部保健所(3)，北部保健所(1)，広島市保健所(16)，呉市保健所(5),福山市保健所(5)〕
三　類	1	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔東部保健所(1)〕
四　類	3	日本紅斑熱(1)〔呉市保健所(1)〕，A型肝炎(1)〔西部保健所(1)〕，重症熱性血小板減少症候群(1)〔広島市保健所(1)〕
五類全数	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(3)〔呉市保健所(1)，西部保健所(2)〕，アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)(2)〔呉市保健所(1),福山市保健所(1)〕，後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所(1)〕，クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔呉市保健所(1)〕風しん(1)〔広島市保健所(1)〕，劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕